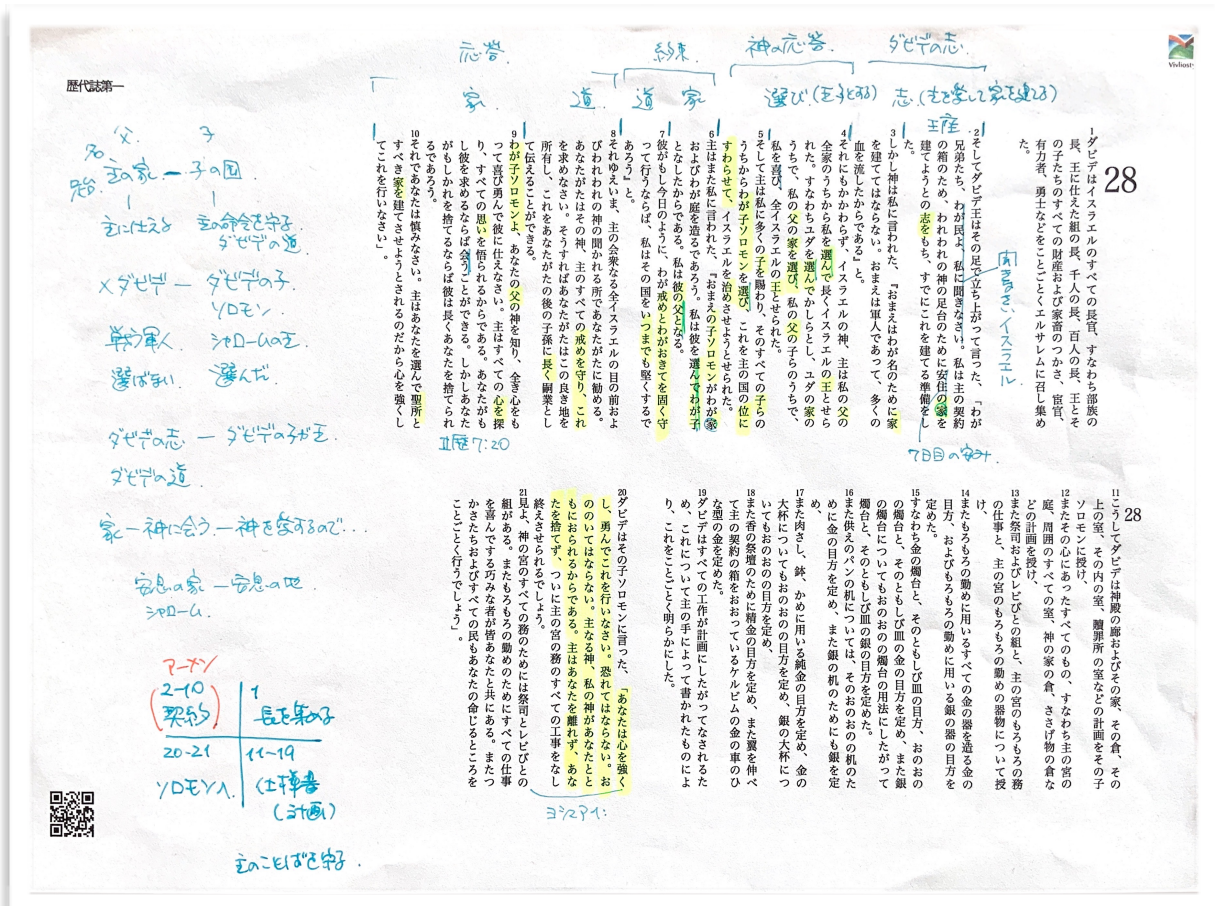




1 歴代誌28-29章

主の家を建てよ

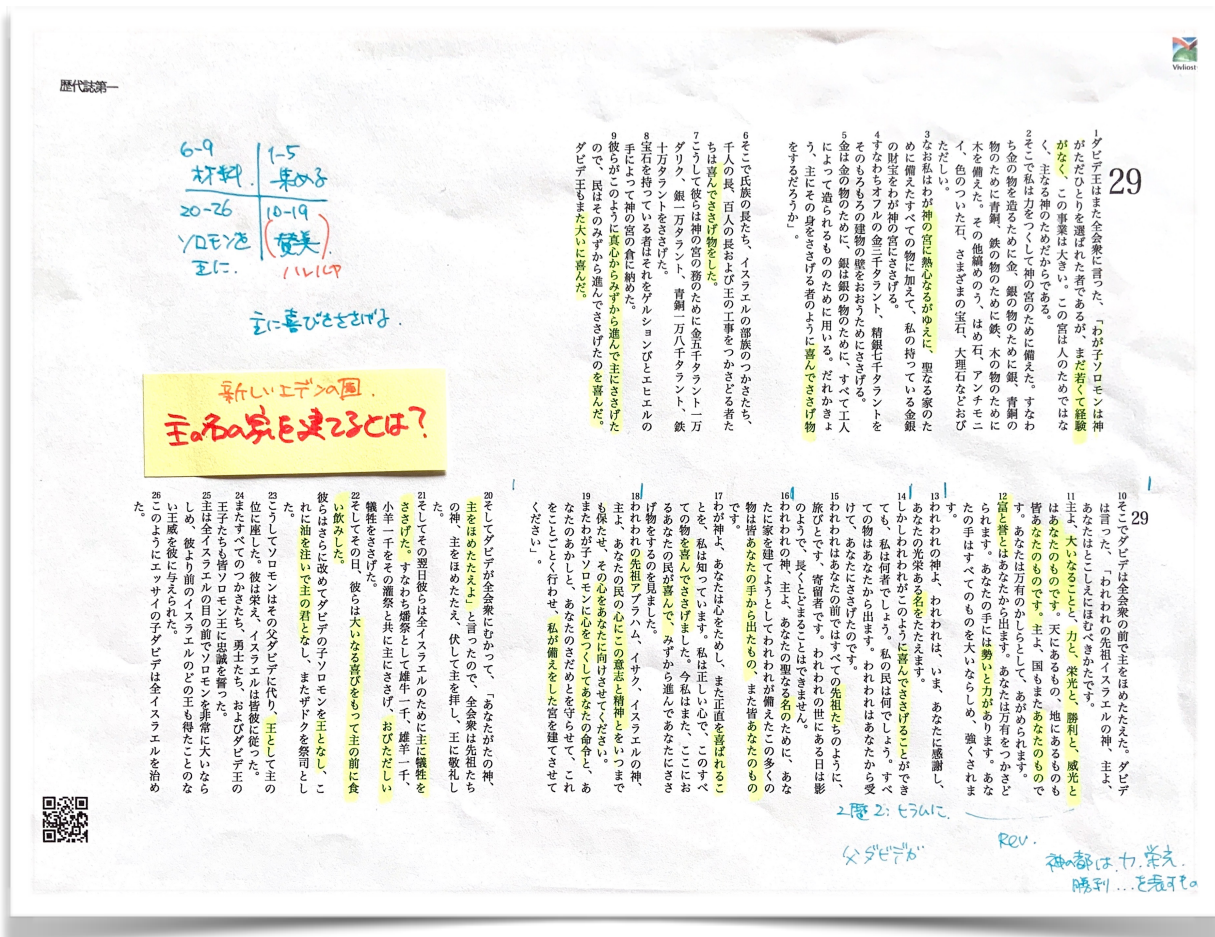


第1歴代誌の28章と29章。アブラハムの契約とダビデの契約ということで、この流れに従って大切な箇所というのがあります。ダビデからソロモンに、ダビデが新しい神殿のための幕屋というものを作って、その神殿を作るところをソロモンに相続するという箇所。モーセが約束の地に入るところでヨシュアに任命するような役割をしてるソロモン。このソロモンに「神様の契約の約束を死ぬ前に相続します」というところが、歴代誌の方でいうと28章と29章のところに、特に書かれています。

それで28章全体と29章全体というのを見ますと、神殿を建てたいと言っている話ですので、材料を集めたり仕様書を渡したりということがありますが、特に28章の方で2節から10節までのところで、神様の契約の約束をダビデがソロモンにもう一度教える、伝えるというところと、29章の方では全会衆を集めてダビデが主をほめたたえるという10節から19節。これが大切な箇所になっているということなので、その箇所を取り出してみました。

28章の分析は以前やりました。28章の2節から10節までの分析では、2節から5節が、ダビデを選んで神様が愛してくれるという恵みの段落。6節から10節は、その子ソロモンに相続が与えられ平和を築くという約束と、その応答ということで恵み(2-5)と

平安(6~10)ということで、この相続の言葉が与えられているというように見ていましたが、29章の10節から19節は、どうなってるんだろうかということで、その箇所を見ました。



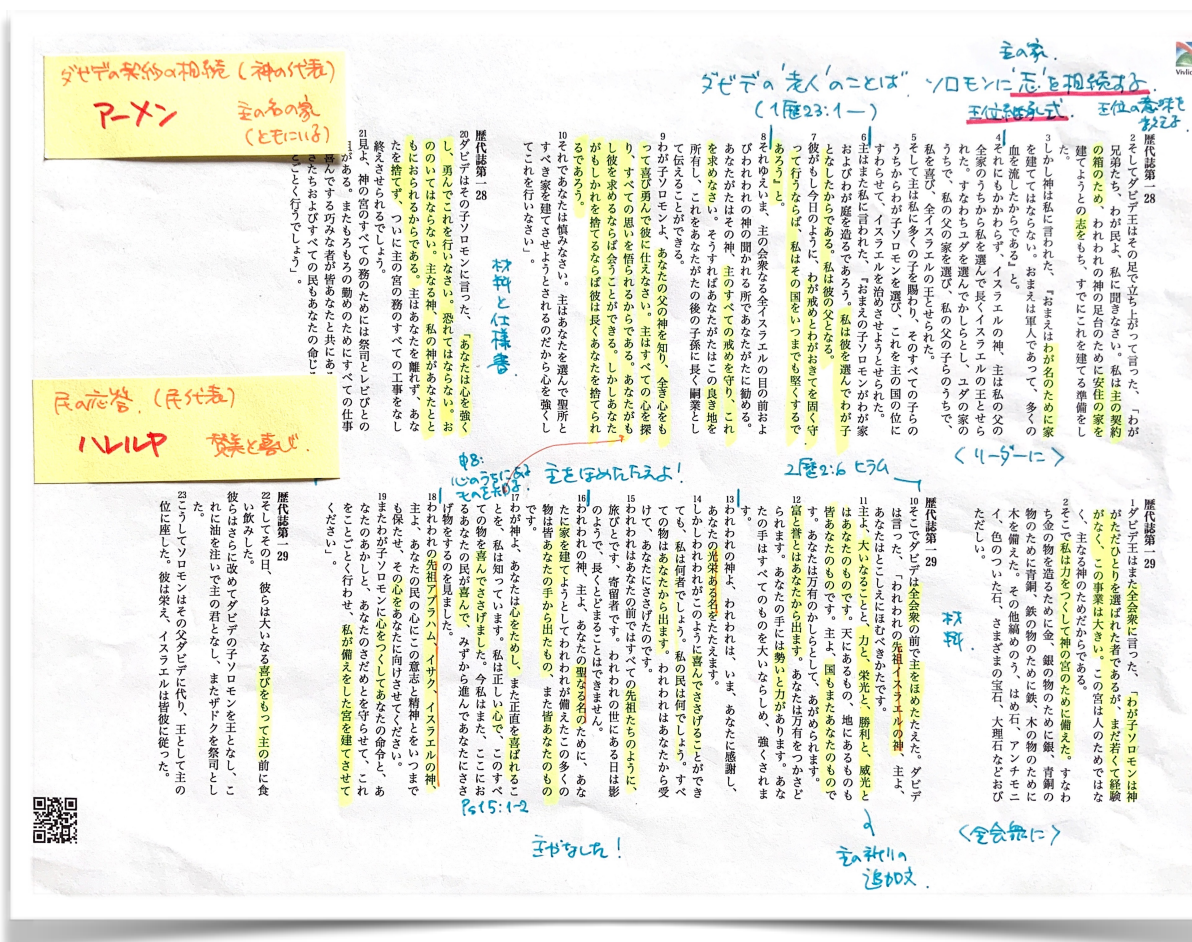
29章10節から19節には「我らの父イスラエルの神」という言い方と「栄光ある名」と「聖なる名」という言い方があつたりします。その辺りを鍵にして4つの段落に分かれるでしょう。10節から12節、13節から15節、16節から17節、18節19節という4つに分かれるでしょうということです。この「力と栄光と勝利と威光はあなたのものです。天にあるものも地にあるものもあなたのものです。国もあなたのものです。富と誉れもあなたから出ます。力と勢い」とこれが「主の祈り」のマタイ福音書の6章で追加されている文ですね。「国と力と栄とは限りなく汝のものなればなり」というのは、ここからの文章のようです。

「すべては神様が与えてくださった、すべて神様のものです」ということを話しますね。「私たちは塵に過ぎない」ということを言うところで始まって、その私たちは家を建てようとしているということなのですが、この家を建てるところで特に強調されているのが「喜んで、喜んで、喜んで」と、喜びを捧げるということが、この家を建てることの目的だということがわかるような箇所だと思います。

詩篇15篇に「神様の家、聖なる宮に住むことができる人は誰ですか」という箇所がありますけれど、そこで「正しき、義を行って、心の中の真実を語る者」という言い方で、その入れる人のことを言いますけれど、まさにこの17節はそんなことを言っていますよね。この心を試してというものは、ダビデの神様に言われた言葉を伝える28章9節にソロモンにいう言うところがあります。「心を探る神様です」ということが書かれて

います。心の内にあるものを知るためだったというのは、マナが降って、そのマナ、全ては神様、天から与えられるものだということを試すというのが、申命記8章に書いてあるところですけども、私たちの心を神様は探る、神様は知っているということが、この17節の背景にあるところだと思います。

28章がまず「何々の長、何々の長」というリーダー達を集めて契約を相続する。仕様書を与えてソロモンを励ますという4段落で28章が言われていると思いますけれど、29章の方は、それに対する応答という形にもなるかと思いますが、全会衆を集めて言いますね。材料を集めました。喜んで捧げました。喜びましたというこの材料を集めて、10節から19節で賛美します。それで20節から26節でソロモンを王にする。大いなる喜びをもって飲み食いして犠牲を捧げて王位継承されましたということが書かれていますけれど、似ていますよね。こっち(28章)が契約を相続する。それに対する応答(29章)ということです。



契約を相続するという方(28章)を見ると、ダビデが契約の相続、ダビデが王座についていちばん相続したいものは志なわけです。王位継承なのですけど、王位の意味というのは志にあるわけですね。何で国を治めるのか、国を相続したいのかと。そのダビデの契約は、主の名の家に神様は住んでくれる、共にいてくださるという祝福ですと。命令を守るなら。これが契約ですから、その契約の約束を相続すると、民は喜びと賛美をもって答えるということですね。喜びと感謝のいけにえをささげる。すなわちダビデの契約の相続の段落の方は、「アーメン、誓いは必ず果たされる」ということと、民は「ハレルヤと言って応答をする」というこの契約の結婚のようなものですね。民と神様の一

致。ひとつになっているところを求めているというのが、ダビデが求めているところだということも言えると思います。

それが主の名の家を建てる意味なわけです。アーメンとハレルヤの民を作る。新しいエデンの園を作るということにもなりますので、ここで宝石の材料がたくさん出てくる。新しい都を作っているという意味で、この宝石、材料が集められているという意味もあると思います。ここで新しい家を建て、新しい国を作る王様としてソロモンが任命されているということなのですが、任命された後に、最初に試されるというのが第2歴代誌2章のところ。ソロモンが知恵があるかどうか試される。主を恐れるかどうか試される箇所が続きます。それもエデンの園の最初の祝福の約束と、それに対するアダムの失敗、応答ということに対して、ソロモンはその点に関してはちゃんと成功した。

知恵をもって答えましたというところがこの後に続くところを見ても、28章と29章で、歴代誌で書かれているところは、ソロモンにその主の家を建てるという心ですね、ダビデの心を知っている神様は、心を喜んでくださって、その応答として新しい主の家を建てていくということを、相続として死ぬ前に、伝えているという箇所が28章と29章ということになると思います。